

令和5年度香港交流 in 林護紀念中学校

行ったこと

私たちは主に3つのことをして、お互いの国について知り、交流を深めました。まず、名刺交換をしました。私たちはドラえもんなどの日本のアニメ・漫画の柄の名刺を一人一人に渡しました。林護中学校の生徒さんは自分で手書きしたものやデコレーションしたものをくれました。次に、お互いにプレゼンテーションを発表しました。パワポだけでなく、実践したり、アドリブを入れたりして興味を持ってもらえるようにしました。最後にバスケやダーツをしたり、香港と日本の有名な食べ物を試食したりしました。バスケで試合をしたり、ダーツのやり方を教えてもらったりしてスポーツを楽しみました。また、香港のご飯やお菓子をいただきながら、林護中学校の生徒さんとフリートークをして充実した時間を過ごしました。

準備したこと

私たちは林護中学校で、日本文化について発表するためにスライドや英語の原稿などの準備をしました。日本文化については、日本の食べ物、日本のスポーツ、日本のおすすめの場所、日本のポップカルチャーの4つを紹介しました。原稿は、英語に翻訳しながら書く必要がありました。できるだけ翻訳機を使わずにシンプルな英語で原稿を作ることを意識しました。また、日本文化を林護中学校のみなさんに味わっていただきたいということで、発表の際に、弓道で使うゴム弓で実演をしたり、自由交流の時に、小城ようかんを食べたりと様々な方法で日本の良さを伝えることが出来ました。

良かったこと

自分の持っている英語の力で林護中学校の生徒さんと会話をし、交流を楽しめたことです。また、それぞれの活動から、学びを得ることができたことです。プレゼンテーションの発表をしたときは、口を大きく、しっかりと動かすことで聞き取りやすい英語を話せることが分かりました。お別れをするときには、何度も振り返って手を振り、もっと話したい！と強く思うほど、交流を行い、学びを得ることができました。

課題点

林護中学校の生徒さんは、時々日本語を交えて話してくれました。しかし、私たちは広東語や中国語をほとんど話せませんでした。挨拶だけでも話せる必要があったと思います。もし、話せていたら、もっと会話が広がり、弾んでいたかもしれません。これを今後活かしていきたいです。

感想

今回の交流会では、様々な言語が交わされていました。広東語、北京語、韓国語、日本語、そして英語です。このような国際的な場に立つことは貴重な体験でした。彼らが話す英語は単語と単語をつなげてなめらかに発音をしており、速いスピードで話していました。そんな中、自分の話せる英語で彼らとコミュニケーションをとることが出来たときは、とてもうれしかったです。また、日本の漫画や曲など文化を林護中学校のみなさんがよく知っていたことには驚きました。ドラえもんやぼっちざろっく、YOASOBIなどを紹介したときはざわつきが起こるほどで、香港でも人気だと分かりました。これらを話題に笑顔で話しかけてくれたので良かったです。



2024年度 香港交流 in領事館

領事が講話した内容

在日香港総領事館では、領事の今までのキャリアや領事館の仕事や役割、そして、海外で働くとはどういうことなのかについて講話していただきました。

まず、領事の衝撃的な数々の体験談や今までのキャリアについてお話していただきました。領事が外交官を目指すようになったのは、夢であった国際科学者にあるそうです。国際科学者になるためには何が必要かと考えたときに、「現地で学ぶ」外交官になることを決めたそうです。また、外交官として勤務する中で、香港の学生が自由を求めて政府にデモをおこしたフェントン事件、中国と台湾間での台湾開境危機、等々様々な国際問題を現地に見に行き行って体験されたそうです。その中で、「日本はもっとこの国とこういう風に外交をしていかなければならないのではないか、そのためにはこの国に勤めよう」と香港総領事館で勤めるまでに中国をはじめ、ハーバード、ワシントン、シカゴ、ソウル…転勤を繰り返し、世界各国で領事としてご勤務されたそうです。一か国にとどまることなく、今何をすべきか、したいのか、自分の考えに正直にどんどん行動し、挑戦していく領事のキャリアをお話していただきました。

次に、領事館の仕事や役割についてお話していただきました。国の首都におかれる大使館に対して、領事館は世界の大事な都市にある機関です。香港総領事館はニューヨーク・ワシントンに並ぶ領事館で唯一大使館と名乗っていいとされているほど日本にとって大切な都市だそうです。また、領事館の役割は日本の良さを発信することや日本の危機管理をすることで、政治部、経済部、広報部、領事部を始めとしたさまざまな部署で、在日する日本人の支援や旅行プランの作成、今回のような日本の学生と香港の文化についての交流をしたり、国際問題が生じたときの対処などをされている大切な場所です。

最後に海外で働くことについて。海外で働くことは様々なやりがいや驚き・発見・厳しさ・面白さがあるそうです。どうやって国際問題を解決していくか考え解決していくやりがいや、日本との違いを見つけるおもしろさ、それだけでなく時には事件の遺族の付き添いとして悲しみを目の当たりにすることも…。そんな新たな経験ができるのが海外だと教えていただきました。そして、海外で働く上で大切なのは「世界の常識は全然違うことを理解すること」「そして何より相手の立場になって考えること」。私達に伝えたいことは、若くして様々な実体験を積める環境に感謝し、常に世界への好奇心をもって様々なことにチャレンジしていったほしいということだとおっしゃっていました。

領事の話をもとに

領事の話の中で、特に大切だなと感じたのが海外で働くことの意味についてです。グローバル化が進み将来的に海外で働くことがあるかもしれない私たちにとって、長い間海外で働き、様々な国を見てきた領事の話には学ぶことがたくさんありました。例えば、世界の常識は日本とは違うことです。日本では通用することも世界の国々では通用しないことがあるため、海外で働くにはどんな環境でも適応できる適応力が大事だとおっしゃっていました。適応力というのは国内で働く場合も求められると思うので、今のうちから柔軟な思考で物事を多面的に見ることを身につけておきたいです。また、相手の立場に立って物事を考えることも大事であるとおっしゃっていました。これは、どのようなときにも言えることで、人として大事なことだと感じました。特に言語や文化が違う海外の人たちと接するときには大事になることではあるけども、同じ国で暮らす同じ日本人であっても考え方が異なることもあるので、相手の立場に立って考えるための想像力も身につけていきたいです。人である以上考え方の違いは少なからずあると思うので、今回領事にお話ししていただいたことをもとに、この先の日常生活、そして、その先の就職活動に活かしていきたいです。

